Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Factors related to deterioration of renal function after singleton delivery in pregnant women with chronic kidney disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 深澤, 祐子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032089

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙 第 2962 号	氏　　名	深澤　祐子
審　査　委　員　会	主　査　教　授	新田　孝作	

論文審査の要旨（400 字以内）

本研究の目的は、慢性腎臓病(CKD)合併妊娠において、妊娠・分娩による腎機能悪化に関与する因子を後方視的に検討することである。

CKD 合併妊娠 156 例を対象とし、妊娠前と分娩後を比較した。CKD stage が進行した症例を腎機能悪化(DRF)群と定義した。

DRF 群は 39 例（25.0%）で、発症率は妊娠前 CKD stage 別で有意差はなかった。DRF 群と対照群の比較から、DRF 発症に関わる因子として、糸球体腎炎の存在、妊娠前からの 3 g/日以上の蛋白尿および抗血小板薬の不使用が抽出された。ROC 曲線から、妊娠前推算糸球体濾過値(eGFR)が 75ml/min 以上の症例のうち、78.8%が DRF とならないことが判明した。

本研究の結果から、CKD 合併妊娠において、妊娠前に蛋白尿が高度の症例に対する対応が必要であり、特に糸球体腎炎を合併する場合は、抗血小板薬の有用性を検討する必要があると考えられた。本研究は、DRF を回避する妊娠前の eGFR の予測値を提示した初めての報告である。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]